

令和4年度 美浜町学校再編検討委員会(第2回) 会議録

開催日 令和5年3月3日(金) 午後3時～午後4時30分

場 所 美浜町役場3階 中会議室

出席者 委員長 齋藤正吉教育委員会委員

委 員 大井徳男区長会会長

天木隆雄区長会副会長

北村美香奥田小学校 PTA 母親代表

石垣由貴子教育委員会委員

川上英雄住民代表

伊藤拓道住民代表

千賀威昌日本福祉大学常務理事

鳥居和己校長会会長、野間中学校長

吉川正美上野間小学校長

(欠席：本多文雄 PTA 連絡協議会会長、布土小学校 PTA 会長)

専門アドバイザー

名古屋市立大学教授 鈴木賢一

事務局 伊藤守教育長

夏目勉教育部長

近藤淳広学校教育課長

竹内稔博学校教育課指導主事

谷川眞紀学校教育係長

協議事項等 別紙会議次第のとおり

開会 午後3時

1 あいさつ

○伊藤守教育長

- ・4月の河和南部小と河和小との統合から1年が経過しようとしている。河和小学校の学校評価アンケートの結果から「安心して通えている」という記述もあった。大きな問題なくここまでこられたのも、保護者や地域のおかげと感謝している。
- ・学校再編と小中一貫校に向けて、今できることを少しずつ進めている。
- ・私自身、意見を聞くことは大事だと改めて感じている。その上で、最終的には、将来の美浜町の子供たちのために、という点はぶれずに合意形成をしていきたい。

- ・建設場所については、候補地のメリットとデメリットを洗い出している。建設場所が決まると具体的に話が進んでいく。
- ・検討委員会の皆様には今後もよろしくお願ひしたい。

○齋藤正吉委員長

- ・本年度2回目の開催である。本年度はワークショップを4回開催できた。
- ・基本構想をまとめていく上でとても大事な会であった。名古屋市立大学の鈴木先生のご指導のおかげで、毎回、活発な意見が出されていた。
- ・来年度はこれらをもとにして、基本構想をたてていく段階となる。これからも皆様にはお世話になるが、どうぞよろしくお願ひしたい。

2 議事（進行：齋藤委員長）

(1) 令和4年度検討経過について

○説明（事務局：学校教育課長）

- ・4月のPTA総会で教育委員より、学校再編について保護者に話をした。
- ・年間を通じて、区長連絡会において、学校再編の進捗状況を説明した。
- ・8月9日、第1回美浜町学校再編検討委員会を開催した。
- ・9月～10月、5小学校PTA委員会にて、学校再編について教育長より説明をした。
- ・10月～2月、夢づくりワークショップを開催した。
- ・民生・児童委員協議会にて、学校再編について説明をした。

- ・9月から、学校再編や美浜町の学校教育について、「広報みはま」で毎月特集をしている。
- ・町のホームページで、夢づくりワークショップの開催記録を掲載し、周知をしている。
- ・ワークショップ参加者は、区長、PTA代表、保育園保護者代表、学校再編検討委員会のメンバー、教育委員が参加をした。毎回30名ほどの方が参加をし、のべ125名の参加となった。委員の皆さんありがとうございました。

○ワークショップ感想紹介（谷川係長）

- ・大人の考えたいい学校と子どもの考えたいい学校は違うので子どもの意見を聞くとよい
- ・地域の力を学校に取り入れて、歴史の伝承もしていきたい
- ・特色ある学校づくりに発展していきたい
- ・せっかく町内に大学があるので、日本福祉大学との連携ができるとよい
- ・地域のために何かしたいと考えている人は多いと思う

○意見交換

（大井委員）区を代表して出席したので、学校と地域の連携を大事にしたいと思ってワーク

ショップに参加した。みんな考えていることは似ていた。私自身が、ワークショップを通して勉強させていただいた。

(天木委員) 再編について今まであまり興味がなかったが、ワークショップを通してさまざまな意見が出ており感心した。ただ漠然としている感はあった。やはり候補地が一番気になるところである。

→ (委員長) 具体的にはまだなにも決まっていないので漠然としているが、令和10年度の開校を目指しなんとか進めていかなければならない。

(北村委員) 令和10年度に自分の子どもが学校に通うわけではないが、子どもたちが美浜町に関わっていくことになる。大学を上手に使ってやっていける学校になるとよい。子どもにとってもよいし、今の子供たちが地域に貢献できる時期になると思う。

→ (委員長) 大学連携は大事にしていきたいところである。

(委員長) 仕事柄ワークショップ(以下WS)を運営する側は経験があったが、今回のWSに参加者として参加してみて、正直とても楽しかった。美浜町は6つの地域それぞれに特色がある。いろんな話を聞いて勉強になった。

(石垣委員) 私は学校が好き。WSに参加して「どんな大人のみなさんも、いつまでも学校に関わっていききたいのだな」と感じた。皆楽しそうに話をされていた。まずは楽しんで学校のことを話題にできたのはよい。今後、来年度以降は子供を中心においた話し合いができるとうよい。

(川上委員) 皆、熱心に議論していた。心配な意見はほとんど出なかった。「どんな学校ができるだろう」とわくわくしていた。学校の施設と地域の一体化などの話題が特に盛り上がった。美浜町の小中学校はアットホームで地域と深く連携できている。本当の意味で特色を生かしていけるとよい。みなさんとともに期待したい。

(伊藤委員) 私自身、普段こういったことは考えないのだが、教育や学校のことを考えるよい機会となった。もっとマイナスな意見が出るかと思ったが、それほどでもなかった。マイナスな意見が出てそれを皆で考えるのもありだったかもしれない。心配は、子どもたちのためにという視点を忘れないようにすること。データ(H20年度愛知県学力ワースト5であった)より、学力の低下が競争力に起因するのかもしれないと考えた。社会に巣立ったときのことを考えると、統合によって切磋琢磨して力をつけていくことも大事なのではないかと感じた。

→ (委員長) マイナスの意見については「この課題を克服する」という点では大事な視点である。

(鳥居委員) もっと反対な人がいると思ったが、そうではなかった。学校への期待や愛情を感じた。学校は本来、夢を追い楽しく過ごす場所。こういう流れでいるのはとてもありがたい。野間中を「強い学校」にしていきたいが、学校が元気なうちに統合していけると、うまくいくのではないかと思う。

(吉川委員) 上野間小は3年連続、大きく児童数が減っている。毎年10人くらい減っているのがとても大きい。このことは地域の方も危機感をもっている。学校再編については応

援している。PTAも学校の教育に協力的である。WSの中で意見を聞いて、話は盛り上がるがやはり漠然としていた。以前、瀬戸小中一貫校にじの丘学園を見学した。実際に見学すると具体的なイメージがわく。中学生は小学生の面倒をよく見ていた。木をふんだんにつかったよい校舎だった。さまざまな先進校を見られるとよいと思う。

→(委員長)教育委員会でも、三重県のいなべ市と京都の先進校を見学した。いじめなどはどちらも全くなかった。先生がたは「一緒にいることが大事」と話されていた。参考になった。

(千賀委員)美浜の教育と関わらせていただいている。美浜町は小さな町。資源は限られている。それをフル活用しないといけない。地域にある資源・人をフル活用したい。また、要望を少しでも実現させることが大人の仕事。また、学校の教員のモチベーションがあがる学校をつくりたい。先生方は忙しいし大変。教育計画をきちんと納められる状況を準備するのも学校の使命だと思う。したがって、そういうものをできるだけ満足できる場所はどこかという点を考えて、建設場所を決めたい。

(鈴木先生)平日の夜にも関わらず、今回のWSに参加してくださった美浜の住民の方々の姿に感激した。前向きな姿勢がありがたかった。否定的な意見をもらうことも覚悟していたが、とても前向きに話を進めてくださった。今後、具体化したところで意見の食い違いが出てくると思う。そこで、お互いを認めながら一つの方向にまとめていけるとよい。そんなことができる予感が今はしている。

(2) 夢づくりワークショップ総括について(名古屋市立大学 鈴木賢一教授)

○キーワードをまとめて感じたこと

「夢」・・・住民の期待がとても大きいと感じた

「子供」・・・子供目線の学校づくり、利用者視点の学校づくりが求められる

「美浜」・・・自然、歴史、人の魅力がベースにある地域

「地域」・・・地域と学校の協力関係が潜在的にたくさんある

・みんなでつくる学校を空間軸と時間軸でまとめてみた。間違いなく魅力がある学校ができると思う。これが漠然とした私のイメージである。

・私の考えるイメージ図。コミュニティをつなげた学校になるとよい。

・人の魅力・資源・自然・歴史、これらが美浜を支えているイメージ。

・学校の中身の話はしていないので、漠然としていたと感じたと思う。学校の中身は、学校の先生が考えていけるとよい。この図は、地域が学校を支えるということを示している。

・「この学校があるから、地域がつながっている」「地域は学校を支えている」

・新しい学校は学校単体というより、町の中の大事な拠点になってほしい。これはWSの中で出てきた意見から導き出した。

(川上委員)真ん中に書かれている「特色ある教育」これはどんな感じなのか。

(鈴木委員) これまで教育環境(学校)は同じようなものが建ってきた。今は、地域の個性的な学校建築をしていくのが大事だと思う。「美浜スペシャル」にしていくことが大事。英語教育とか大学連携、これらは他の地域では絶対できない要素である。上手に取り入れていきたい。そうすると自然に特色ある学校ができてくる。やっていることを上手に伸ばしていけるとよい。

(川上委員) 札幌や九州に大きな会社ができる。必要な人材が求められる。美浜スペシャルをもっと考えていきたい。美浜のこどもたち、卒業して羽ばたこうとしたときにしっかりとばたける、社会についていける、そんな子供たちを育てたい。

(委員長) 京都の大原学院は、キャリア教育のプログラムがしっかりできている。卒業年度には卒業論文を書く。この論文の質が高い。こういうしくみづくりがしっかりできている。小さな学校、学年1クラスなのに、そんな彼らが高校に入ると積極的に学ぶ姿がある。それが印象的だった。美浜なりの9年間のプログラムを作っていけるとよいのではないか。子どもたちが高校生になった時、「美浜出身の生徒は、なんかちがうなあ」と思われたい。

(川上委員) 環境を与えるとぐんと伸びる生徒がいる。環境を与えてあげたい。

(委員長) 河和小で学校運営委員会を開いた。校長先生がそこで「子どもがもっと自由に学べる環境をつくりたい」と話された。子どもたちの自主的な学びを支えたいとのこと。例えば、担任が変わるとやり方が違う。保護者も少し不安をもっている。そこを乗り越えていけるとよい。参加された方々も「こういう会議がしたかった」と話されていた。

(鈴木先生) 機会があれば、ネット上でもさまざまな先進校を見ることができる。ぜひ見てほしい。飛島村の学校再編をやったとき、さまざまな壁があった。それを一つずつ解決していった。ふたをあげると上手に協力しながらやることができた。小中一貫校の歴史はまだまだ浅い。先進校から学ぶとよい。

(委員長) 京都大原学院は、学校の運営に地域の人が深くかかわっていた。職員室に地域の人専用の机があった。毎日のように地域の人が職員室に来る。地区の特性を生かして教育をしている。

(北村委員) 母親からすると先進校の様子はピンとこない。写真でもよいので、若い保護者になにか示したり説明したりするとよい。そうすればイメージがわくと思う。進んでいることはわかるが、保護者はまだ見えていないところがあるので、イメージがわくと、意見もどんどん出てくると思う。

(伊藤委員) デジタル社会、情報があふれる社会になっている。教育改革が進むと、何が正解かわからなくなってくる。その時々にならないとわからない。その時々で正解を探していくしかない。なので、意見を言いづらいと思う。先進校を参考にするのはよいことだと思う。今、官僚が考える教育は、大きく変化した。それを聞いたときショックだった。正解がないのは難しいことである。

(鈴木先生) 学校の姿形は明治からほぼ一緒。教育は村一番の最先端のものになるとよい。先進校を見に行くとよい。

(委員長) 現地に行くと、情報量が全然違う。インパクトが違う。みんなで一緒に見学に行きたいくらいである。

(千賀委員) 大学連携というワードがよく出てくるが、大学としても責任を感じる。小中学校は義務教育であり公教育である。私立と公教育では違いがあるが、いいところを見つけてやっていくとよい。互いの特徴や行政の良さ、立場のよさを生かしながら、他の市町でできないことをやっていけるとよい。私立の学校と組む意義を考えながら取り組んでいきたいと思う。

3 今後の予定

(学校教育課長) 新年度は、各地域で住民説明会を実施する予定である。具体的な話ができる段階で実施していきたい。また、小中一貫校整備基本構想の策定のための新たなワークショップも実施する。その時は、区長さんや保護者のみなさんのご協力をお願いいたしと考えている。

4 閉会の言葉

(教育部長) 次年度、さまざまな予定がある。まさに正念場を迎える年だと思っている。子どもが主役と考え特色ある教育の実施に取り組んでいきたい。このメンバーでの会議は最後となるが、今後のご理解とご協力をよろしくお願いしたい。

閉会 午後 4 時 30 分

以 上